

立部遺跡の火葬墓を読み解く～古代の火葬と氏族墓地～

奈良文化財研究所 小田裕樹

はじめに

- ・立部遺跡で見つかった古代火葬墓の位置づけについて。
- ・火葬墓：日本の古代（奈良・平安時代）を代表する墓制。
- 仏教思想を背景とし、納棺→茶毘→拾骨→蔵骨（納骨）の一連の儀礼を経て造られた。
⇔縄文時代の火葬や古墳時代後期のカマド塚とは区別する。

1. 立部遺跡の古代火葬墓について

(1) 立部遺跡の調査成果（図1～4）

- ・1990年の発掘調査。松原市立大塚青少年運動広場の施設整備に伴う調査。
- ・古墳時代の方墳・円墳、古代の火葬墓・土坑墓・木棺墓を検出。
- ・古代火葬墓はST2005、ST1004
→ST2005は平安時代前期の火葬墓。

(2) 立部遺跡の古代火葬墓

①火葬墓としての特徴

- ・ ・ ・蔵骨器が良好な状態で出土し、詳細な調査がおこなわれた。
- ②古墳時代から古代へ続く墓地に造られた。

2. 古代の火葬墓の特徴とは？

(1) 文献資料にみる古代の火葬

- ・日本における火葬の始まりは文武4年（700）。
僧道昭の火葬「天下の火葬此より生まれり」（『続日本紀』）
その後、四代にわたって天皇が火葬された（持統・文武・元明・元正天皇）。
→火葬は「天皇喪葬を範として、貴族・官人層を中心に受け入れられた」（黒崎 1980）
奈良時代は火葬墓が顕著。平安時代に土葬墓・木棺墓が増加。
- ・「喪葬令」の規定・・・火葬に関わる直接の規定はない。
三位以上条：三位以上および「別祖氏宗」の「宮墓」を認める。「若欲大藏者聽」
- ・「軍防令」・「賦役令」の規定・・・遺体処理の一環としての火葬。「掃葬」の存在。

(2) 古代火葬墓の考古学的特徴

- ・蔵骨器（骨蔵器）に火葬骨を納める。墓誌を納めることもある。
- ・多様な蔵骨器、納める施設も多様（図5・6）。
- ・代表的な事例（太安萬侶墓、威奈大村墓、柏原市雁多尾畑49支群1号火葬墓など）

(3) 古代火葬墓の階層性

墓構造（蔵骨器と蔵骨器を納める施設の組み合わせ）に注目する。

→古代火葬墓を3つのタイプに分類（図7）。

I型火葬墓：専用の蔵骨器を木槨・粘土槨・木炭槨・石櫃に納める。

II型火葬墓：須恵器壺A（短頸壺）を小石室や須恵器大甕（・素掘土坑）に納める。

III型火葬墓：転用の蔵骨器（煮炊具・貯蔵具・食器）を土坑に納める。

・・・立部遺跡 ST2005 はII型火葬墓、ST1004 はIII型火葬墓。

(4) 古代火葬墓の造営背景

I型とII・III型で構造・分布が大きく異なる。被葬者の階層・官位と相関する（表1）。

・I型火葬墓は五位以上の官位と相関する。→「喪葬令」に則った墓か？

・II・III型は都城周辺の在地氏族墓地や地方で多く造営される。

① 下級官人・在地氏族層の墓

帯金具が出土する事例（三ツ塚古墳群）。

② 火葬の普及過程を示す

豊前国（福岡県東南部～大分県北部）における古代火葬墓が良好な事例（図8～10）。

→II型火葬墓が火葬墓造営の端緒。背景に仏教思想・僧侶の存在が考えられる。

火葬を受容するか否かは在地の事情による。

3. 古代の氏族墓地の特徴とは？

(1) 三ツ塚古墳群の概要（図11・12）

・奈良県葛城市に所在する古墳群・古墓群。

・古墳時代後期から奈良・平安時代まで継続的な墓域の利用があった。

・東・中央・西の3つの支群それぞれで古墳・古代墳墓を造営する。

(2) 三ツ塚古墳群の変遷とその特徴

・中央支群の形成過程

8号墳が端緒となる古墳。7号墳が墳丘をもつ古墳の最後。

7・8号墳の背後の斜面で古代の火葬墓・木棺墓が造営される。

→古代の火葬墓・木棺墓は祖先が葬られた8号墳・7号墳を意識しつつ造営された。

=被葬者や所属する集団の結びつき・帰属意識（=氏族紐帯）を再確認する場。

4. 立部遺跡の古代火葬墓の位置づけ

・古代の氏族墓地のあり方が分かる貴重な事例。

・発掘調査で構造が明らかになった火葬墓としても重要。

・地域に根差しつつ律令国家との関わりを有した在地氏族の墓が連続と造られていた。

おわりに

文 献

- 小田裕樹 2008 「奈良県葛城市三ツ塚古墳群・古墓群の形成過程」『九州と東アジアの考古学』
小田裕樹 2011 「墓構造の比較からみた古代火葬墓の造営背景」『日本考古学』32
小田裕樹 2019 「火葬墓造営の一考察」『論集 葬送・墓・石塔』狭川真一さん還暦記念会
黒崎 直 1980 「近畿における8・9世紀の墳墓」『研究論集』VI 奈良国立文化財研究所
小林義孝 1999 「古代墳墓研究の分析視角」『古代文化』51-12
奈良県立橿原考古学研究所 2002 『三ツ塚古墳群』
松原市教育委員会 2021 『立部遺跡・立部古墳群跡』
村上久和 2021 「豊前における古代火葬墓の動向」『古文化談叢』86
渡邊邦雄 2018 『墓制にみる古代社会の変容』同成社



立部遺跡火葬墓 ST2005 から出土した蔵骨器・火葬骨・土器・焼土・炭

※立部遺跡から出土した蔵骨器ほか出土品は1月20日～2月11日まで平城宮いざない館「アフター発掘された日本列島 2023 展」で展示中です。

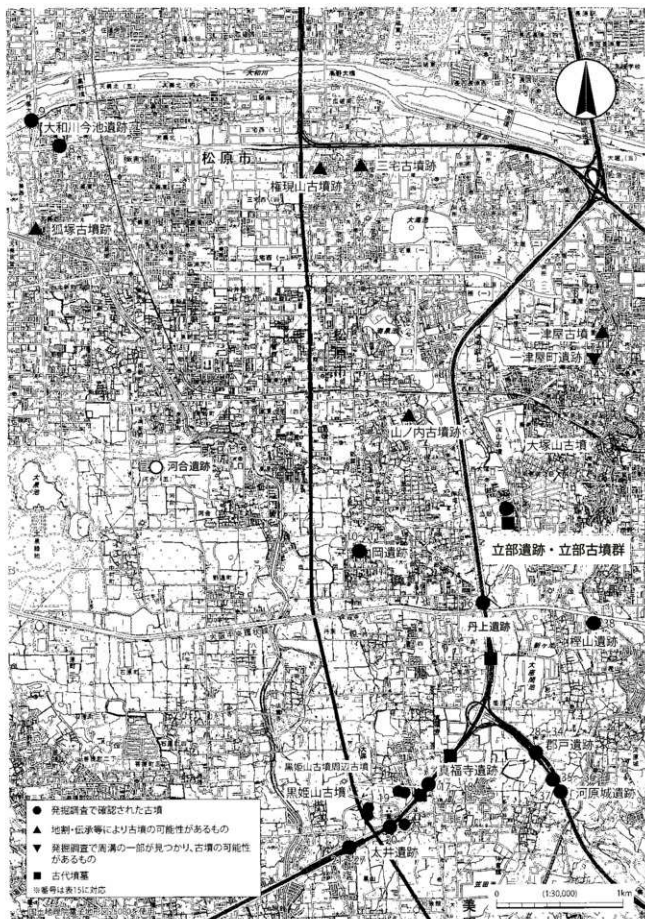
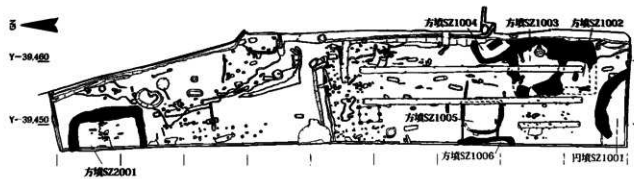
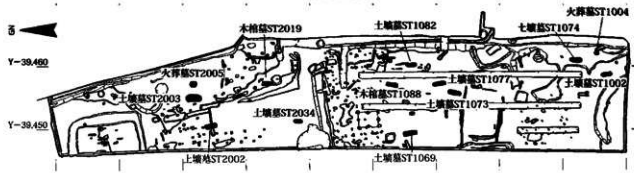


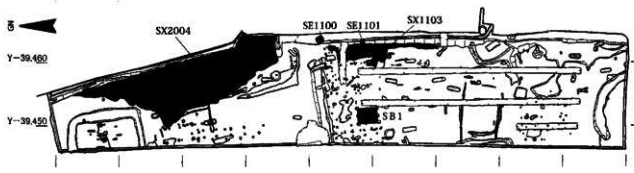
図1 立部遺跡と周辺の古墳・古代墳墓遺跡等の分布 1:30,000 (松原市教委 2021 を一部改変)



古墳時代



飛鳥時代～平安時代前期



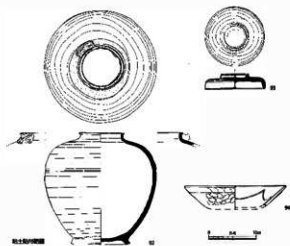
平安時代後期～鎌倉時代

図2 立部遺跡・古墳群の遺構変遷図 (松原市教委 2021) 1:600

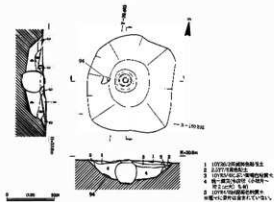
遺構名	5c		6c		7c		8c		9c		10c	
	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後	前
方墳 SZ2001		■										
円墳 SZ1001		■	■									
方墳 SZ1002～1006		■	■	■	■							
土槨墓 ST1077					■	■						
火葬墓 ST1004							■	■				
火葬墓 ST2005									■	■		
土槨墓 ST2003									■	■		
木槨墓 ST1088										■	■	

() は詳細な時期不明。

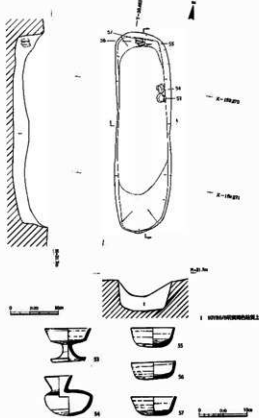
図3 立部遺跡・古墳群の主な古墳・古代墳墓の消長 (松原市教委 2021)



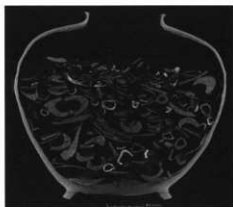
火葬墓 ST2005 蔵骨器



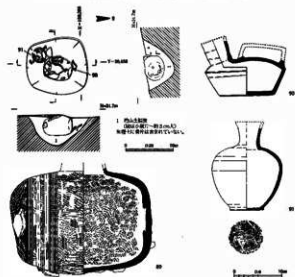
火葬墓 ST2005 遺構図



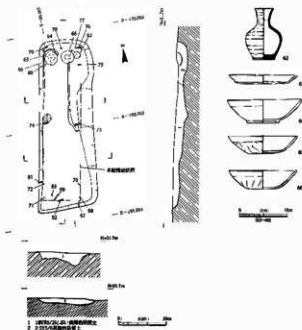
土坑墓 ST1077 遺構図・出土土器



ST2005 蔵骨器内部の火葬骨 (X線CT画像)

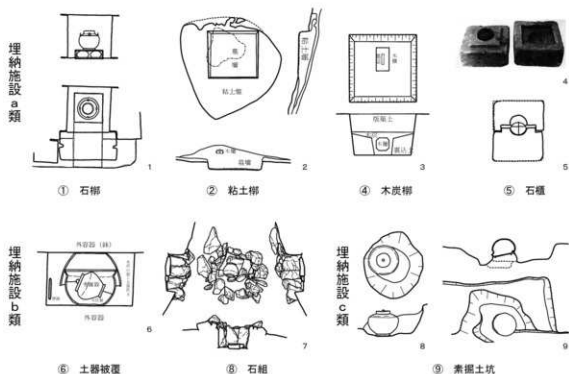


火葬墓 ST1004 遺構図・蔵骨器・出土土器



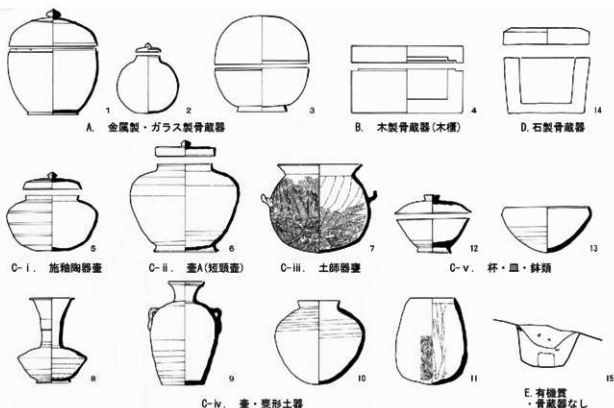
木棺墓 ST1008 遺構図・出土土器

図4 立部遺跡の火葬墓・土坑墓・木棺墓（松原市教委 2021）遺構図1：40 土器1：8



1. 中尾山古墳 2. 小治田安萬侶墓 3. 太安萬侶墓 4. 拾生古墓 5. 北米谷古墓
6. 出風敷1号墓 7. 雁多尾畑49支群1号墓 8. 高井田古墓群20号墓 9. 鳥ノ山火葬墓

図5 古代火葬墓の埋納施設の種類 (小田 2011)



- 1・2. 文祚麻呂墓 3. 威奈人村墓 4. 小治田安萬侶墓 5. 大観冠山古墓 6. 雁多尾畑49支群1号墓
7. 雁多尾畑49支群2号墓 8. 宮ノ木古墓群8号墓 9. 池の上墳墓群14号墓 10. 米糠火葬墓 11. 池の上墳墓群3号墓
12. 池の上墳墓群17号墓 13. 古寺墳墓群 14. 御祭山古墓 15. 大迫遺跡36号墓

図6 古代火葬墓の骨蔵器の種類 (小田 2011)



図8 豊前国の火葬墓分布図 (小田 2019)

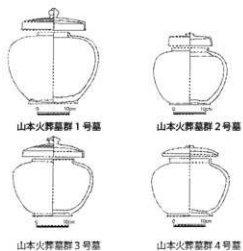


図9 大分県宇佐市山本火葬墓群 (村上 2021)

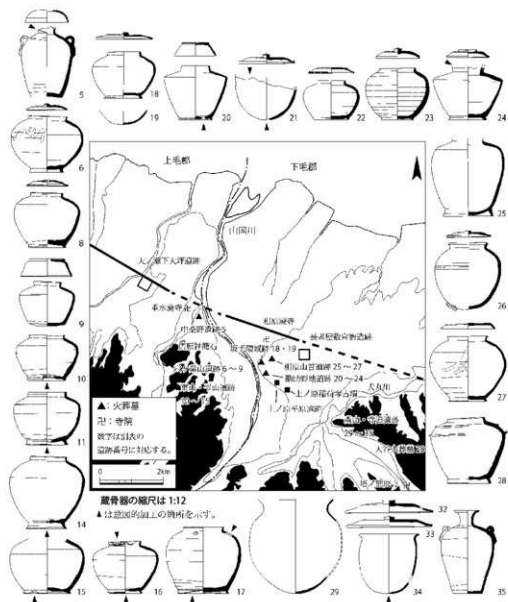


図10 豊前国南部 (福岡県上毛町~大分県中津市) の火葬墓分布 (小田 2019)

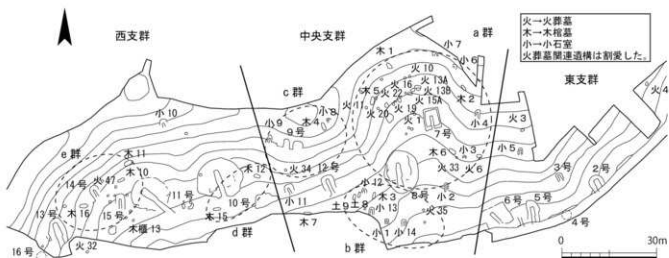


図 11 奈良県葛城市三ツ塚古墳群遺構配置図 (小田 2008 より改変) 1 : 1,200

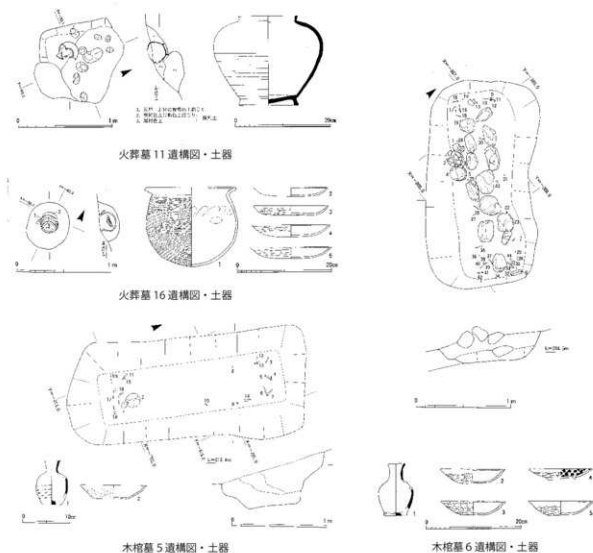


図 12 三ツ塚古墳群の火葬墓・木棺墓 (奈良県立権原考古学研究所 2002)